

「加茂の百年企業」 その3 よもやま

新



市内事業所の
個性豊かな社長さんや
店長さんなどの意外な交友関係をご紹介。
いつかあなたにも繋がるかも？

いいともバトン：No.34 登場の小川俊彦さん ➡ 三野敏弘さん



左／三野敏弘さん(43歳) 右／古川 修さん(44歳)

いいとも No.35

「株三野電機商会」社長 三野敏弘さんの“とものわ”は「青海神社」権禰宜（ごんねぎ）の古川修さんです。年は近くても学区が違うお二人が知り合ったのは（一社）加茂青年会議所での活動でした。古川さんが神事などで笛を吹く人を探していた時、学生時代に吹奏楽部だった三野さんを誘ったことから、顔を合わせる機会が増えています。雅楽の笛は難しく最初から吹ける人は珍しいのですが、三野さんは、すぐに音が出せたそうです（さすが吹奏楽部♪）。あまりにも上手なので、5月の加茂まつり（春季例大祭）の笛方からはじめて、様々な神社の行事に参加するようになりました。今では、年に20回ほど神社の行事に参加していること。

三野さんは「周囲から、大変だねと言われることもありますが、それ以上に青海神社に関わることは光栄なこと」と話してくださいました。加茂のシンボルである青海神社の伝統と文化を、これからも守り続けていってください！

- 初代有本為吉
- ・醤油販売により創業

三崎屋醸造株（旧柄尾市）
当店の創業は大正八年（一九一九年）とされ、創業百年を超えました。

私は経営者としては四代目となります。それぞれの経営者の時代と逸話などについてご紹介します。

- 二代目有本堅策
- ・高度経済成長期

缶詰などの食料品の卸売業など営業の幅を順調に拡大しました。

- ・加茂の地酒一本セット

店舗新築に合わせ、地域で初めて加茂市内三蔵元の酒をセットとした商品を企画し、現在も贈答用として人気の商品となっています。

- 三代目有本タイ
- ・婦人会と加茂山リス園

商売のほか、婦人会活動をしており、雪椿まつりの行事として伊豆大島町へ幾度となく訪問していました。

当時の市長に「加茂にも大島町のようなリス園が欲しいね。」と話したところ実現し

たと聞いております。

- 四代目有本康輔
- ・ホームページ開設やオリジナル包装紙

ホームページを開設し、全国からの注文を受け付けてお

ります。

加茂の雪椿・加茂山・加

茂川イメージのオリジナル包

装紙や、椿の絵を使った手提

げ袋などを制作し、お客様

の包装紙・椿の手提げ袋

ふるさと
よもやま

の百年企業

その3

・酒小売免許の自由化
二〇〇〇年代に入ると酒販売が自由化となりコンビニや量販店での酒販売や廉価販売などにより、酒類の販売量が激減しました。

・三代目有本タイ
・婦人会と加茂山リス園

商売のほか、婦人会活動をしており、雪椿まつりの行事として伊豆大島町へ幾度となく訪問していました。

当時の市長に「加茂にも大島町のようなリス園が欲しいね。」と話したところ実現し

たと聞いております。

・四代目有本康輔
・ホームページ開設やオリジナル包装紙

ホームページを開設し、全国からの注文を受け付けてお

ります。

これからも当店が長年培ってきたノウハウを活かし、お客様が喜び、また加茂市や地域に役立つ経営を続けてゆきたいと思います。

・今后について
コロナウイルスの影響により売上げが減少し、また大型店の進出による厳しい競争が予想されます。

このような時代ですが、これからも当店が長年培ってきたノウハウを活かし、お客様が喜び、また加茂市や地域に役立つ経営を続けてゆきたいと思います。



昭和初期の醤油通い徳利と現在の加茂イメージの包装紙・椿の手提げ袋